

きっと飾りたくなる未来へ。

will

KYOTO
UNIVERSITY

vol.
3

e..





I will be

き っ と 飾 り た く な る 未 来 へ 。

京 都 大 学 で、学 び、研 究 し た こ と は、
あ な た の 未 来 を よ り か が や く も の へ と 導 き ま す。
卒 業 し、様 々 な 分 野 で 活 躍 す る
先 輩 の 姿 は、近 い 未 来 の あ な た の 姿。
あ な た も 京 都 大 学 で、
飾 り た く な る 未 来 を め ざ し ま せ ん か。

宇宙 × 医療。
今はまだ漠然とした
夢を叶えるために。

MARUO MEI

円尾 芽衣

理学部 理学科・宇宙物理系 卒業
大学院理学研究科 修士課程 修了
兵庫県 神戸女学院高等学部 出身
エムスリー株式会社

MARUO MEI

「緩やかな専門化」アドミッションポリシーに感動

生徒会、体育祭に打ち込み、ダンスと書道に夢中だった中高生活。高校2年の夏から1年間、アメリカのウイスコンシン州に留学もしました。当時はいろんなことに興味を持っていたため、進学先を決めるのにとても苦労し、日本の大学だけでなくアメリカの大学へも目を向けていました。そんな頃、京大理学部のアドミッションポリシーを見て、「緩やかな専門化」というフレーズの入った内容に心を動かされ、高校3年生の秋に、京大理学部を受験しようと決めました。中学の先生や親の友人が京大理学部出身だったこともあり、尊敬できる人に多く出会える期待が高まったことも決め手でした。高3の夏までアメリカにいたこともあり、秋から物理を「から学び始めましたが、とても追いつけるようなバイナードではなく、現役の時「男前受験」で京大のみ受験、結局京大のお膝元の京都の駿台予備校に入学。浪人中には成績が伸び悩んだこともありましたが、予備校からの帰り道はリフレッシュの時間と決めていました。ゆっくり川沿いを歩いて駅まで行き、離れて暮らす親と日常の連絡を取って心を落ち着かせたり、時には夜空を星や月を見上げてみたりしたことは大きな支えとなりました。

チャンスあふれるジャングルのような環境で学ぶ

京大入学後は、思っていた以上に周りのレベルが高く、凹みましたが、代数学や植物地理学など、いろんな分野のエキスパートが同級生にいたのはとても刺激的でした。また、最初驚きができるまでは一人ぼっちだと孤独を感じることもありましたが、そのうち、その分機に会ふれている、と捉えられるようになりました。チャンスがそこら中に転がっていて、興味をそそられることもたくさん。先輩曰く、「京大はジャングル」（ちょっと入ってみたいらとてつもなく面白いものがあるけれども、前をすっと通り過ぎるだけだとカオスにしか見えないうい・）だそうです。もう一つ、それまでには感じなかった劣等感というものを大学で初めて感じました。周りがとても賢く見えて、必死に食らいついていった記憶があります。1回生の頃から参加していた「自主ゼミ」ではハイレベルでわからないことが多く、準備中に憂鬱になることも多々ありました。ところが、いつもいやだなと思いつつ参加し続けるうちに、「いやだな」がだいぶ消えて、「やればできるかもしれない」と思うことが多くなっていました。続けて取り組み、わかることが出てくれば面白くなってくるという経験でした。専攻を決め



COLUMN 01

こうやって勉強してました

センター試験に向けての対策は、年が明けてから2次試験対策の傍ら、センターの過去問を解くようにし、間違えた問題とその背景知識をノートにまとめました。メンタルが結構影響してくるので、自分自身に「大丈夫や、できるぞ」と言い聞かせ(笑)マインドコントロールしていました。個別試験対策では、数学があまりできていなかったの、浪人中に基礎から徹底的にやり直しました。

COLUMN 02

上司・同僚からの一言

玉嶋 謙一さん

サイトプロモーション グループリーダー

円尾さんはグローバル人材として、新卒1年目から海外のプロジェクトにも参画するなど、将来が期待されているスタッフの1人です。現在はデータサイエンティストとしての専門スキルを生かしつつ、マーケティング部門のプロジェクトマネージャーとして活躍しています。いつも飄々としているクールビューティで、入社早々リモートワーク中心という難しい環境にも関わらず、安定感のあるコミュニケーションとアウトプットを見せてくれます。ものすごいスピードで成長してくれており、上司として非常に頼もしく感じています。

東京での過ごし方

朝は、スピーカーからテンションの上がる音楽をかけ、身を震えています。せっかく東京に来たからには東京について詳しくなろうと思いい、「散歩の達人 街がわかる東京散歩地図」を読んで散歩したり、ハイキングしたり自然とともつきあっています。

応援しています！



高校生の皆さんへ！ message for student.

京都大学には、門をたたけばあらゆる扉を開いてくれる環境があります。少しでも興味があれば、諦めずにチャレンジしてみてください。浪人生のみなさんは、後がないというプレッシャーに負けないください。勉強の不安は勉強をすることでしか解決されません。私は浪人時代の友達と、未だに仲良しです。一緒に乗り越えられるよう、刺激あってください。応援しています。

るにあたっては、理系学問全体に興味があったので、1回生では数学・物理・化学・地学・生物全て履修しました。2回生の終わりに、どの系に進むのか決めなければならず、ギリギリまで迷いましたが、やっぱり一番かっこいいと思った宇宙物理を選択。その後まだまだ学びたかったので大学院に進学し、宇宙物理学の中でも装置開発の研究室に所属しました。院生時代には、東アジア最大の望遠鏡のある岡山まで天体観測によく行きました。京大理学部には、すごくハイレベルなものが転がって存在しているだけでなく、いろんなところに驚きやワクワク感があつたと思います。受け身では何も起こらないけど、自発的に動けば、がんの研究者とラボで研究させてもらったり、きのこのプロと生態調査をしたり、他大学の研究者と沖縄のサンゴ礁の生態調査をしたり、同年代と徹夜で物理実験を行ったり、海外に研究留学したりできました。本当にいろいろな機会に恵まれました。

宇宙物理学と医療をつなぐ —未来の可能性は無限大。

大学院卒業後は、ITを活用して医療の世界を変革していくエムスリー株式会社というところに就職し、マーケティングとデータ分析の部署を兼務しています。現在は、コロナワクチン情報を集約するコンテンツの新設プロジェクトの旗振り役を任されています。実際、入社早々でここまでの経験ができるとは思っておらず、毎日忙しいですが、自分のスキルが増えることが実感でき、仕事が本当に楽しいです。いろんな仕事に携わる中で、どれも「から学ぶことばかりなのですが、質問すれば先輩たちが丁寧に教えてくれ、常にこちらが求める以上のフィードバックをもらえます。メンターやリーダーとの定期的なミーティングなど、サポートの手厚さもありがたいです。実は入社前の面談ではわがままを伝えていて、それが米国での勤務希望と現在の二部署で働く二刀流でした。他社でも同じことを伝え、入社して5年経ったら米国に半年くらい勤務できる、と言われたのですが、私としてはもっと早く行きたいし



長くいたい。エムスリーはそんな私の希望を真剣に受けとめ、それなら米国勤務を前提にしたキャリアパスを一緒に考えようと提案してくれました。今はニューヨークオフィスで働くための準備として、米国側に日本のコンテンツ作成手法の情報提供をする仕事も兼務しています。もともと学生時代は宇宙物理学を学んでいたの、将来、宇宙と医療とがオーバーラップするような仕事、例えば宇宙旅行が盛んになれば、そこにはヘルスケアも当然必要になってくる。そんな仕事ができたら楽しいだろうなと思っています。

ものの見方が広がっていく
面白さを追い求めること。
私の関心は人文・
社会科学の思考から。

TACHIBANA SUMIRE

橘 堇

教育学部 教育科学科 卒業
大学院教育学研究科 修士課程 修了
三重県 県立伊勢高等学校 出身
株式会社ハウテレビジョン

TACHIBANA SUMIRE

「たまたま」環境に恵まれ京大へ

地元の公立高校に入学した当初の私は、「大学進学率」という言葉も知らないほど、勉強にも進学にも興味が薄かったように思います。しかし、たまたま学ぶことの面白さを教えてくれる先生方と出会って、「一気に勉強が楽しい」と思えるようになりました。部活動も好きでしたが、「日で一冊楽しいのは授業の時間」というくらい、わくわく授業を受け、放課後も先生を質問攻めにしていたことを覚えています。

中でも、お気に入りの現代文の授業。素材となっていた人文・社会科学の思想を通して、思考の幅を一気に広げられるように感じました。担当の先生が京大の教育学部出身だったことから、「こうした考え方ができる人になりたい」と思ったのが、京大に興味を持ったきっかけです。しかし、入試難易度からなかなか決断できず、心を決めたのはセンター試験を終えてから。先生方や友達に助けってもらいながら慌てて二次試験の勉強をし、周囲に助けられて進学できたので、幸運だったと思っています。



ゼミ仲間、先生とディズニーランドへ

自分を形作る基盤が形成された大学生活は“青春そのもの”

18歳まで過ごした大好きな故郷・伊勢市は、のどかで素敵な街でしたが、遊びも勉強も都市部ほど選択肢が多くありませんでした。ゆえに良くも悪くも「選択で迷う」経験が少なかつたように思います。それが、京大に来て初めて様々な方面で「何かを選ぶ」「何かを捨てる」必要性に直面し、「自由を謳歌する」難しさを痛感したのです。例えば、当時500科目くらいあった一般教養。入学当初、時間割を作るにあたって「何をどう選んだらいいんだろう」と悩みました。しかし慣れてくると、全てを自分で選択できることがとても心地よく、社会人になった今も、こうした自由を追い求めて飛び歩いているように思います。

また、入学前は「変人が多い」という噂を聞いていましたが、入ってみると「普通である」「変である」ということに頓着することが少ない、「みんな違ってみんないい」のが当たり前とされる世界でした。京大で数年過ごすうちに、誰もが「そのままの自分」になっていく。日本全体もこういう社会になるといいなと思います。

学部時代の生活を振り返ると、早朝から深夜まで、部活動（フィギュアスケート部）の練習をしたり、春は桜、夏は螢、秋は紅葉と花鳥風月を追って京都中を巡ったり、友達とあらゆることを議題に議論したり…。たくさん感性的な刺激を受け、笑ったり泣いたり、忙しい日々でした。

一方大学院では、高校時代からの関心を追求し、教育・歴史社会学を専攻。それなり



COLUMN 01

こうやって勉強してました

高校の先生に「東大でも京大でも、学校のカリキュラムを逸脱したものは出ない。学校の勉強をきちんとしたら受かる」と言われたことを信じて、ひたすら学校の定期テストで100点を取ることに専念していました。ただ、京大の入試問題は本質をついた面白い問題だと感じていたので、3年生の夏ごろからは、京大過去問に近い問題を解いたり、京大模試を受けたりしていました。結果論ですが、前者はセンター、後者は二次試験と手堅く対策できたと思います。



に本を読み勉強したつもりでしたが、周りの生徒たちに全く追いつかず、いつも背伸びしていました。でも、そういった「自分には到底かなわない」という人たちに、常にものの見方をひっくり返されるような経験は刺激的で、日々楽しく議論をしていました。また、英国・オックスフォード大学に3週間短期留学をし、多様な専攻の研究者の卵たちと切磋琢磨したのは夢のような経験でした。ありがたいことに「今年が人生で一番楽しくて充実している」と毎年感じていて、振り返ると青春そのものの大学生活でした。

COLUMN 02

上司からの一言

池内 淳志さん

執行役員COO

橘さんは入社されてから1年程度ではありますが、すでに部門の中核役割を担っていただいております。本当に助けられています。

向上心が高く、日々編集者としてのレベルを高めるべく努力しているのに加え、部門の課題に対しても真摯に向き合っており、部門の成長に大きく貢献しています。

橘さんと議論をする際には、いつも本質的な議論をすることができるため、非常に頼りにしています。会社が大きく成長していくにあたって更に大きい役割を担っていただきたいと思いますのでさらなる成長に期待しております。



新聞社、外資系コンサルティング会社を経て、今は学生や若手社会人のキャリアを支援する「外資就活ドットコム」「Līga」というメディアを運営する会社で、コンテンツ戦略の立案や、記事の執筆・編集、組織作りなどを行っています。知人の紹介で転職した今の会社は、自分のキャリア選択の軸にぴったり合っていることに加え、各界の一流の人たちと取材できる環境、「視野を広げる楽しさ」を学生に伝えられる事業などに魅力を感じています。

私のキャリア選択の軸は2つ。一つは「人間の心や営み・社会を深く理解できる仕事をする（＝広い意味で“教育”に関わる）こと」で、京大教育学部での学びが基盤となっています。もう一つは、新聞社での経験に根差し「メディアの組織作りに関わること」です。

京都大学という文化を礎石としてビジネスに関わっていくことは、自分の強みだと思っています。当時の指導教官からは「本当に好きなことを研究するように。好きなことをして失敗しても自

分の選択だから受け入れられる。」と言われていましたが、京大にはそういう空気感がありました。社会人になりたての頃は無我夢中でしたが、そろそろ慣れたことから、仕事の中でも当時のように「自信をもって好きなことをする」という意識を取り戻しつつあります。

今後の将来像としては、引き続き本業で2つの軸に関わっていきたいです。また、人のキャリア相談を受けたり、家庭教師を依頼されたりすることが多いので、個人としてはそうした活動を続けていきたいという思いもあります。将来的には大学・アカデミアの世界にもなんらか貢献したいですね。

応援しています！



高校生の皆さんへ！ message for student.

自分の心に正直に、好きだという気持ちや学びたいと思う気持ちを大切に、道を選んでください。好きなことのためなら頑張れますし、たとえうまくいなくても良い経験になると思います。少しでも京大に興味がある方へ。多感な学生時代を京都大学という空間で過ごせたことは、私にとって大きな財産でした。多方面に突っ立った優れた先生方、学問を尊重する大学、学生が主役の左京区界隈の浮世離れた空気感、京都という街にあふれる歴史、文化、自然……。これらに魅力を感じるなら、ぜひ挑戦してみてください。また「京大に行きたいけれど、自分には難しい」と思っている方。どうかあきらめず、リサーチし、勉強し、仲間やサポートの機会を探し出してほしいと思います。自分の思いを大切に、正しく努力を重ねれば、道は開けると信じています。

意外と規則正しい生活を送ってます！

大学院時代の私は日が落ちる頃に起きて、19時に研究室に行く夜型生活。幸い指導教官や、ドクターの先輩も同じ時間帯に活動する人たちだったため、煮詰まってきた深夜2時ごろに先生を訪ねて助言を求めたり、先輩に相談しているうちに夜が明け、力尽きてソファに寝てしまったり……。先生には「一生あなたは日の光の下で働けないわよ」なんて言われましたが、今はなんとか太陽のもとで働いています。

美容が持つ魔法の力で
多くの人を美しく、笑顔に。

MOCHIDA MAHO

持田 真歩

農学部 応用生命科学科 卒業

大学院農学研究科 修士課程 修了

大阪府 大阪教育大学附属高等学校平野校舎 出身

株式会社ミルボン

MOCHIDA MAHO

やると決めたら一直線。勉強漬けで京大合格！

高校生活のほとんどを占めていたのは勉強と音楽。勉強は努力した分、きちんと結果に反映されるので好きでした。授業の中では、目で見て変化が分かるのが楽しい化学の実験が1番好きでした。部活動は、軽音楽部でドラムを担当。文化祭で演奏したり、ライブハウスで他校の高校生と一緒にライブをしたこともあります。

京大受験を意識したのは、高校2年生のときに参加したELCAS（京大が実施する高校生向けの体験型学習講座）がきっかけでした。当初は大学で実験ができるなんて楽しそう！と軽い気持ちで応募しましたが、様々な化学現象を説明する楽しさにどんどん魅了されていきました。教授やチューターの方はとても親切で、素朴な質問に対しても真摯に答えてもらったのが印象に残っています。実際に大学のキャンパスに足を運んでいたのが京大への憧れがどんどん強くなってきたので、受験を決意しました。化学が好きだったので理系の学部に行くことは決めていましたが、願書を出す直前までの学部にするか悩んでいました。絶対京大に合格しなかったら、自分の得意・苦手科目を考慮し、合格の可能性が最も高かった農学部を選びました。受験を決めたものの成績は合格には程遠く、より熱心に勉強するため苦手な数学は個別指導塾に変え、2つの塾をかけもちしました。やると決めたらとことんやる性格なので、勉強漬けの毎日でした。なかなか成績が伸びず思い悩んだ時期もありましたが、決して京大受験を諦めることはなかったです。

学びたいことを自由に学べる環境のもと、ひたすら自分の興味を追求。

大学に通い始めて人の多さにまず驚きました。大学生活を通じて沢山の人と出会いましたが、十人十色という言葉がぴったり。みんな自分の軸をしっかり持っていて、様々な価値観に触れることができました。また、たくさんさんの学問に触れることができたのも良かったです。1回生のときに受講したゼミを通じて有機化学の概念が変わり、有機化学をもっと学びたいと思うようになったものの、当時所属していた学科には有機化学の専攻がなく、転学科への挑戦を決意。転学科に対して周りにも応援してくれました。自分の学びたいことを追求するには、京大は最高の場所だと今でも思っています。1・2回生の頃は塾講師やイタリアンレストラン、派遣会社の事務など様々なバイトを経験しました。化粧品や服を集めるのが趣味だったので、バイト代はほとんどそれらに費やしていました。バイトがない日は友人と食事に行ったり、カラオケに行ったり。京都はお洒落な飲食店が多く、お店を巡るのも楽しかったです。3年生からは専門的な授業が増え、学業中心の生活になっていきました。4年生になると研究室に配属され、自分が主体となつて研究を進めていく面白さと難しさに触れることができました。建屋には広めの給湯室があったので、研究室の仲間と晩御飯を作り、わいわい話しながら食べたのは良い思い出です。

COLUMN 01

こうやって勉強してました

記述対策を重点的に行いました。具体的には、解いた過去問を学校や塾の先生に添削していただきました。自己採点だと判断が甘くなりがちなので、客観的に採点してもらうのがおすすめです。特に苦手だった数学は演習と添削を繰り返し、考え方のポイントなどをまとめたノートを作りました。模試や受験本番前に見返して復習するだけでなく、これだけ頑張ったから大丈夫!とお守り代わりにもなったアイテムです。他には、英単語学習です。脳は寝ている間に記憶を整理すると知ったので、寝る前の10分間を暗記タイムにしていました。

COLUMN 02

上司からの一言

谷川 祥子さん

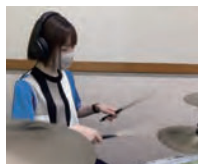
開発本部 研究開発部 研究開発グループ
プレミアムブランドAJチームマネージャー

持田さんは配属当初から目標を明確に持っており、自身で実験の計画を考え実行できるところが素晴らしい。安心して仕事を任せられます。オーギュアブランドは、取り扱っていた美容師様だけでなく、お客様からの期待も非常に高いブランドです。持田さんならきっと、持ち前の明るさとお客様の髪をきれいにしたいという想いの強さで多くの女性を美しく、笑顔にできるようなヘアケアを作ってくれと期待しています。



今もドラムを 続けています

毎週土曜は音楽教室に通い、ドラムを習っています。最近電子ドラムを購入し、自宅でも演奏できるようになって嬉しいです。コロナが落ち着いたら、バンドを組んでライブ演奏もしたいですね。



応援しています!

高校生の皆さんへ! message for student.

模試の成績が悪かったり、周り比べて落ち込んでしまうときもありますよね。でも、自分の1番の味方は自分自身。努力は必ず報われます。頑張っている自分を信じてあげてください。私はセンター試験の成績が芳しくなく、合格判定は最も悪いものでした。それでも「絶対合格できる!」と自らを鼓舞し、なんとか合格することができました。京大での生活はとても楽しいです。夢のキャンパスライフを思い描きながら、受験を乗り切ってください。応援しています!

小学生の頃から化粧品に興味があり、将来は化粧品や美容業界で研究者として働きたいと考えていました。化粧品に興味を持ったきっかけは、習っていたバレエの発表会。本番前はとても緊張していたのに、メイクを施すと別人になったみたいに自信が湧いてくる。まるで魔法のようでした。また私は癖毛が悩みだったのですが、中学生のときに初めて縮毛矯正をしました。綺麗なストレートヘアになり、鏡を見るのが楽しくなりました。こういった経験から、化粧品や美容が持つ力で多くの人を美しく、笑顔にしたい、と考えるようになりました。それから暇があればSNSや雑誌で化粧品の情報収集をし、日本化粧品検定1級や化粧品成分検定1級の資格を取得しました。私が就職活動の軸にしていたのは「その会社で働く姿を想像してわくわくするか」。美容室で扱うシャンプー類、カラー剤などを開発・製造・販売するミルボンでは毛髪や頭皮における基礎研究も

大好きな美容の世界でわくわく、アクティブに。

盛んですが、毛髪科学は肌比べるとまだまだ発展途上。自分の発見が世界初のものになるかもしれない心が躍り、入社を決めました。研究職で入社し、研修を経て現在は「オーギュア」というブランドで主にシャンプーとトリートメントの開発を担当しています。研究職と聞くと、研究所に籠りっぱなしのイメージですが、ミルボンの研究職はとてもアクティブ。美容室を訪問し、美容師様と意見を交換しながら製品開発を進めています。また製品をご愛用いただいているお客様にもヒアリングし、開発に活かしています。将来的には、何を極めていくかはまだ考え中ですが、〇〇といえは持田さん、と周りから言ってもらえるような人材になりたいです。



大学の学祭でのライブの様子



人の役に立ちたい、
喜ぶ顔が見たい。
それが学生生活を通して
気づいた私の価値観。

MURAKAMI YU

村上 宥

工学部 建築学科 卒業

大学院工学研究科 修士課程 修了

大阪府 四天王寺中学・高等学校 出身

東京建物株式会社

MURAKAMI YU

自分のインスピレーションを信じて受験

中学生の頃はあまり成績がバツとしなくて、順位は下から数えた方が早いくらいでした。そんな私も、友達の影響で行き始めた学習塾のおかげで勉強する習慣がつき、徐々に成績も伸びてきたことでさらに勉強が楽しく感じることになりました。友達と学校終わりに一緒に塾へ行ったり、時には息抜きに遊び、また、スポーツが好きだったので体育委員になって体育祭の運営に関わったり、学校生活を存分に楽しんでいました。

大学受験を見据えたとき、習い事や中学受験等、何かにチャレンジする時には必ず自分で選び、そのための努力は厭われない性格だった私には、学生の主体性を第一にしながら様々なことが学べる環境が整っている京都大学は、非常に魅力的に感じました。学部は理数系の科目が得意だったこともあり、工学部に関心を持ちました。私が受験した当時は工学部の中でも学科まで決める必要があったため、海外（特にヨーロッパ）の街並みを見るのが好きだったこと、長くこの世に残るものとして建築を学んでみたいと思ったことから、最初にインスピレーションを感じた建築学科を選びました。具体的に志望校と学部まで決めたことで、試験の形式や出題の傾向を意識した勉強の時間を取るようになりました。また、学習塾では同じように京大を目指す人がいるクラスに入ること、京大に入る為にはまずはこの中で一番になるう！という意識で、日々の勉強に取り組み切磋琢磨できたと思います。

選択の自由。

京大で学んだ全てのことが倫理的な考え方に繋がっている。

晴れて入学した京大工学部。工学部は女性が少ないと聞いていましたが、建築学科は約4分の1が女性だったので想像よりはたくさんいたという印象でした。中高が女子校だったためそれまでと環境は随分変わりましたが、元々小さい頃から男の子に混じって野球やサッカーをして遊んでいたの、抵抗感はありませんでした。学部の4年間は、体育会男子ラクロス部にマネージャーとして所属し、日本一を目標に朝イチ部活、その後授業に出てまた部活、と年中部活に取り組んでいました。就職すればいくらでも仕事はできる、と思いついたアルバイトはほとんどせず、この4年間にしかできないこと、学業と部活の2本立てでとにかくやり遂げよう決めました。部活を通して学部を超えた様々な人達と出会えたことは私にとって貴重な財産です。一人で何かするより、「人の役に立ちたい」、「喜ぶ顔が見たい」ということが私の価値観なのだと気づききっかけになりました。また学業では、希望していた建築学科で構造分野の研究に出会い、解析や理論を通



COLUMN 01

こうやって勉強してました。

センター試験は、高校3年生になってから社会対策勉強、それ以外の教科は基本2次試験を意識した勉強をしました。高校の授業と学習塾の勉強を中心に基礎を固めるようにし、高校3年生になってから各教科を過去問25年分、実際の試験時間を意識しながら解けるようになるまで繰り返し取り組むようにしました。勉強を始める前に、その日何をするかを手帳に書いて、終わったら線を引いて消すことが小さなモチベーションでした。

COLUMN 02

上司からの一言

大塚 裕司さん

都市開発事業部 事業推進グループ・グループリーダー

村上さんは、再開発事業の推進業務を担当しています。メンバーの中では若手ながら、先輩社員のサポートではなく、プロジェクトの中心メンバーとして活躍する姿を頼もしく見えています。また、プロジェクトを進める中、業務の取りこぼしが発生することもあります。そういった時に、村上さんがフォローする場面を何度も見てきました。多忙な中、何事にも自分事として業務に取り組む姿勢は、周りに刺激を与えています。性格も明るく、親しみやすいため、時には上司や先輩社員をいじりながら、その場の雰囲気や和やかにしてくれます。今後も、大変な業務が続くと思いますが、都市開発の中心メンバーとして活躍し続けることを期待しています。

大事にしている時間

年に数回しか帰省できませんが、実家の家族は私の人生の大切な支えであり、安らげる貴重な時間です。普段の朝は、家を出るまでの数分の軽いトレーニングも、体調が整い1日の元気が出るのにお気に入りの時間です。

応援しています！

高校生の皆さんへ！ message for student.

目標とする大学への入学に向けて後悔しないように勉強に励むことも大切ですが、高校生活は二度とない大切な期間なので、友達との時間を楽しく過ごして欲しいと思います。京都大学はいつでもたくさんのことを自由に学べます。率直に今一番関心があることを大学に入って学ぶこととして選んでみてください。ぜひ、頑張ってください。

04

して地震の揺れや被害を抑えるための手法を提案する構造力学の研究室を選択しました。海外の学会にも参加するという貴重な体験もでき、地震の多い日本ならではのなか、この分野においては日本の研究が非常に進んでいると感じることができました。

京大の良いところは、まずは人。京大には地方出身の人が想像していたよりも多く、色々なキャラクターの人、自分の想像を超える様々な価値観や創造力、エネルギーを持った人たちが出会えました。さらに学問。高校生の時には各教科の問題を解くことが勉強だと思っていたが、大学では強制ではなく選択の自由があり、様々な分野を専門とした研究に出会うことができました。

「自分はどうか」「どうするとうまく行くのか」常に思考を巡らせ責任を意識する

就職活動では、部活のマネージャーをしてきたこともあって、人の役に立つこと・貢献できるようなことをしていきたい、その思いを生きていく上で人の生活と切っても切れない建物を通して実現したい、そしてその企画・開発に携わりたいと考えるようになりしました。

実現できるのはどういう業界・会社かを広い範囲で検討し、研究と並行してできる限りの時間を割いて説明会や社員の話を聞く時間を作り、自分で見る・聞くを通して納得できる業界・会社へと絞り込みました。その際にも一番重視したのは自分自身のインスピレーションでした。後悔しないためには自分自身で判断することが重要だと考えていたからです。

その中で、学生と真摯に向き合っている採用担当者や社員と出会いました。昔からチームスポーツに取り組んでいた私は、何ができるかという内容と同じくらい一緒に頑張る周囲の環境が大切だと考えていたため、これだけ「人」に向き合ってくれた社員の中で私も一緒に頑張りたいと思う

たのが入社の決め手となりました。

私が所属する「東京建物株式会社」は、総合デベロッパーと呼ばれる不動産会社で、賃貸オフィスや分譲マンション、商業施設など様々な用途の建物を開発する会社です。現在私は東京駅目の前の再開発事業に携わっており、数年後の竣工に向けて、日々地元権利者の方々や設計者・施工者の方々と打ち合わせをしています。このプロジェクトに携わるようになって2年。まだ私は一担当者ですがありますが、いずれこのような大きなプロジェクトで自分を中心となり、進めていく力をつけたいと思っています。



ビジネスパーソンとして力をつけ、
ビジネスを通して社会に
インパクトを。

KATAOKA NAOKO

片岡 直子

理学部 理学科 卒業

京都府 京都女子高等学校 出身

アクセント株式会社

accenture

KATAOKA NAOKO

受験勉強は気負わず、普段通りに

高校の授業や塾に通いながらも、勉強だけではなく文化祭などの行事ことや部活には本気で打ち込んでいました。京大を目指すにあたり、勉強にはそれなりの時間を割いていましたが、部活も行事も、あらゆることに本気で取り組んできたと思っています。

高校生のときに、大学などの進路について考え始めましたが、自分は幼いころから動物が好きで、彼らがどう感じているのか、何を考えているのか、ということに関心があることに気づきました。そして個体からそれ以上のスケールのマクロの生物学を学びたい、との思いで、霊長類学を始めとした、野生動物の行動や生態の研究ができる京都大学の理学部を志望しました。京大が難関大学だということは知っていましたが、目標とした後も、それまでとは大きく変わらず、今自分は何をすべきなのか、ということを中心に考えながら着実に目標へ向けて過していました。

自学自習の理念で身についた主体性

京大には「自由の学風」があると言われていたこともあり、自由度がかなり高いのだらうな、と思っていましたが、実際に多くの意思決定を自分で行う必要があったので、特に入学当初の授業選択の時期などがいい意味で、迷い悩んでいたような気がします。理学部では入学時に学科・専攻を決める必要がなく、学部としての必修科目もありないので、科学の幅広い分野の中から自分の興味のある授業を選ぶことができました。ですが、実は4年間ほぼ部活中心の生活で、大学時代に最も打ち込んだのはラクロスでした。女子ラクロス部に入部し、「部昇格」という目標に対して、自分は何ができるのか、チームでどのような役割を担うべきなのか、自分に問い、行動する毎日でした。週5で朝5時に起きて電車に乗り、7時から農学部グラウンドで練習、という部活中心の生活。平日は、午前中の授業があるときには練習を抜けて大学の授業へ・・・という、京大生らしからぬ（？）、午前中をフル活用した朝型生活を送っていました。その頃に身に着けた「行動にうつす」という姿勢は、社会人になつてからも、主体的に課題を特定し、それを解決するための行動をとる、といったことに繋がっているなと思います。京大はまた「自学自習」という教育理念も掲げていますが、自分がやりたいと思うこと（それが例え勉強でなくても）に全力で取り組むことを推奨してくれているような文化があったので、そういった主体性を養えたのは、京大に入ったおかげなのかな、と思っています。

こうやって勉強してました。

京大といえば、求められる偏差値が高く、難関大学というイメージがありますが、当時は考え方として、「理学部の定員の最下位に入れば入学は入学だ!」と思って開き直っていました。その定員最下位に入るために、必要な点数は何点で、それをセンター試験・二次試験で何点ずつとる必要があって、そのためには現状を踏まえるどのような勉強をしなければならないのか、ということと向き合いながら勉強していました。

COLUMN 02

上司からの一言

金井 真梨絵さん

金融サービス本部 シニア・マネジャー

入社してまだ3年目ですが、クライアントからの信頼も厚く、チームを引っ張る中心メンバーとして活躍しています。自身の担当領域に限らず、他メンバーの状況も見ながら適宜サポートしたり、現在取り組んでいる新時代の顧客体験づくりに関しても様々な観点から深掘り検討したり、チーム全体のパフォーマンス向上に貢献してくれています。引き続きクライアント業界に対する深い知見を活かしながら、コンサルタントとしての専門性を磨いていき、今後のアクセンチュアを担っていくような人財になってもらいたいと期待しています。今後も一緒に働けるのがとても楽しみです。

休日は仕事から離れて
趣味に没頭

YouTubeのゲーム実況で気になったゲームをプレイしたり、友人とオンラインゲームをしたり(ゲーミングPC持っています!)。また、仕事を通じてたくさんの人とコミュニケーションをとる中で、「ヒトとはなにか」ということに興味が出てきたので、人類学に関する本を読み漁ったり。たまに車で30分ほどのところにある温泉に行き、交代浴などをして大量に汗をかくてリフレッシュすることもあります。



学部を卒業後、研究の道に進むかとも迷いましたが、研究ではなくビジネスを通じて、より社会にインパクトを残せるようなことに取り組みたいと思い、就職を決めました。経済がどのように動くかということを実用的に学び・理解したいということ、今はまだ形になっていないものの、自分がやりたいと思うことをいつか形にするために必要なビジネスパーソンとしての基礎的な力をつけたいという思いもありました。

自分がやりたいと思うことを
いつか形にするために

くりに取り組んでいます。私は日々、今と近い将来だけを見据え、今の自分にできることを精一杯やるように心がけています。昔からあまり夢や将来像を思い描いたことがないのは、不確実性が高く、変化も激しい現代において、「こういう人間になる!」となりたい将来像を決めても、環境などの外的要因によって、自分では手立てのしようがない状況になったり、実現が困難になつてしまつていくことが往々にしてあるのではないかと思っているからです。そんな見通しが立たない時代ではあるけれども、こういった変化に適応していけるような、柔軟な人間でありたいと思っています。



応援しています!

高校生の皆さんへ! message for student.

今になってだからこそ思うことかもしれませんが、高校生の時だからこそ思うこと、感じるものがたくさんあって、それらはその後の人生においてとても大切な宝物になると思っています。京大に入ろうと思うどうしても受験勉強一辺倒になりがちかもしれませんが、高校生活でやりたい、楽しみたいと思うことがあるのなら、是非、全力でそれを楽しんでください。また、京大入試は難易度こそ高いかもしれませんが、その門戸は誰にでも公平に開かれていると思います。正しい努力をすれば、誰もが京大に入るチャンスがあると私は信じているので、もし少しでも、京大に入りたい、という気持ちがあれば、自分なんか無理だ、と思わず、一歩踏み出してほしいと思います。



KYODAI GIRLS' TALK

京大で学ぶ！

女子学生座談会

学問はもちろん、学生生活も存分に楽しむ院生や学部生に、
京大を目指したきっかけや今後の目標について語っていただきました。

こんなことを
聞きました。

01. 京大を目指したきっかけは？

02. 京大生になってみてどうでしたか？

03. 勉強とサークルなどの両立で工夫していることは？

04. 今後の夢や目標を聞かせてください。

ANNA KURIYAMA

MIZUKI MORIWAKI

NAO UEDA



KYODAI GIRLS' TALK



ANNA KURIYAMA
栗山 晏奈さん
文学部4回生

01_ 一番のきっかけは、高校一年生の夏休みに文学部のオープンキャンパスに参加したことです。大学構内に漂う雰囲気や居心地の良さを感じ、この大学に行ってみようと思いました。別の理由としては、「この分野が激しく好き!」という人に囲まれて勉強できること、日本史や国文が好きなのが「変」なのではなく、同じ熱量で語り合える友人に出会えるのではないかなと思ったからです。

02_ 期待通り、自分と好きな方向性がよく似た友人に出会えました。何時間も特定の学問について語り合うことの楽しさは、京都大学だからこそ得られるもののように思います。時間があれば京都の街を歴史探訪したり、大学の図書館で勉強したり、本を読んだり。京都大学を中心とした区域にはワクワクが絶えず存在していて、独特の魅力を感じます。

03_ 日頃からやるべきことをメモに全て書き出して、やるべきことを先送りにしないように意識しています。勉強と部活、どちらもやるべき時にはそれぞれに集中して取り組むことも重要だと思います。でないともちろん中途半端になってしまう気がします。

04_ 「私だからこそできること」がある社会人になりたいと思っています。それが仕事でも、趣味でも、ボランティアでもいいので、人の役に立つことで、私だからこそやり遂げられた!というものがあると素敵だと思います。

あなたへメッセージ

京都大学には、「これが好きで仕方がない」という突き抜けた仲間が沢山います。好きな分野がいまある人にとっても、好きな学問を大学で見つけた人にとっても、とても居心地の良い大学であることは間違いありません。中学・高校の勉強に面白さを感じることが一度でもあったなら、京都大学には向いていると思います。自分の興味や好奇心を大切に、目の前の勉強に取り組んでみてください。応援しています!



MIZUKI MORIWAKI
森脇 瑞希さん
工学研究科修士課程
1年生

01_ 高2の夏にオープンキャンパスに行き、なんとなく興味を引かれたのがきっかけです。割と自由な性格だったので、京都大学の自由な校風に慣れる気持ちもあったと思います。塾に通っていなかったので学校の勉強が中心でした。勉強を頑張りすぎていたので、親に「女の子だから勉強は頑張らなくていいんじゃない」と言われたことが少しショックで、絶対に第一志望に受かりたいと思って勉強をしていました。

02_ 想像通りいろんな学生がいて面白いですね。周りが優秀すぎて、少し大変だなと思うこともあります。学科などによりますが、学部2回生以降は授業をあまり詰めなくていいので自由な時間が多かったです。もちろん勉強は大変ですが、時間に余裕があるのでアルバイトと両立しやすいです。公務員を目指すなら、4回生の冬から公務員総合職の勉強を始めると合格する余裕はあるかと思います。

03_ サークルは所属していませんが、アルバイトを頑張っています。心がけていることは、どっちも全力で頑張ること。割とテストの点が取れれば単位がもらえる授業も多いので、テストが近づくとバイトをセーブして、勉強に集中するようにしています。同じ専攻の友達と助け合うことも結構重要です。過去問を入手したり、わからないところを教え合ったりなど。

04_ 今、ちょうど就活を始めているのですが、どんな仕事についていたとしても自分らしく生きていきたいと思っています。

あなたへメッセージ

私自身、頭のいい方ではないので、高校生の時は京大に合格できるとは思っていませんでした。ただ、少しでも京大に興味があるのなら、自分のレベルにあていないと他の人に反対されたとしても、挑戦するべきだと思います。自分が納得する答えが出せるよう頑張ってください。



NAO UEDA
上田 菜央さん
農学部4回生

01_ 両親が元京大生で、京大の話はいつも聞いていたので自然と興味を持つようになりました。模試の成績が振るわず京大受験を諦めることも考えましたが、周囲に打ち明ける勇気がわかずそのまま京大受験へ……。それでもチャンスは少しでも多い方がいいと思い、特色入試・一般入試の両方に出願しました。その特色入試で大好きな地衣類について話した結果、運良く合格することができました。

02_ 同じ分野に興味を持つ友人との交流は、非常に刺激的です。それに加えて、今まで興味のなかった分野を専門とする友人にサークル等で出会い、視野が広がりました。入学前にはいわゆる枠にとらわれない人が多い「変わった」大学だというイメージを持っていましたが、案外「普通」の大学だなと感じました。空いた時間には、観光地に行っておいしいご飯やスイーツを食べて、京都を満喫しています。

03_ 学部4回生になると、サークルの中心的な役割ではなくなり、また研究活動が始まったため、周りでは課外活動を引退する友人もいます。でも私は、サークルで様々な人と関わることも重要だと思っているので、勉強の息抜きにサークル活動を続けようと考えています。

04_ 今後は大学院に進学し、樹木や地衣類についてさらに学んでいきたいです。将来は、現在あまりスポットライトが当てられていない地衣類を皆さんに知ってもらえるきっかけとなる仕事ができれば、と考えています。

あなたへメッセージ

京大は、積極的に学びたい方にとって最適な場所です。将来の夢がある人、ない人、今の時点でやりたいことが思いつかない人も、京大に入って様々な人と関わりと新しい自分にきっと出会えるはずです。私のように将来の夢がある程度明確になっている人は、一般入試だけではなく特色入試への挑戦もおすすめします。皆さんが京大で素敵な大学生活を送れるよう、応援しています!



男女共同参画推進センター
<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>



京都大学